

第1回京都市市民スポーツ振興計画策定委員会  
会議録

日時：平成22年7月9日（金）午後5時～午後6時45分  
会場：京都市武道センター第1会議室  
出席：＜委員＞ 山下委員長，松永委員長代理，石野委員，片山委員  
雑賀委員，高屋委員，檀野委員，西村委員，長谷川委員  
森井委員，吉田委員  
＜京都市＞ 細見副市長  
（文化市民局市民スポーツ振興室）  
奥村担当部長，下間スポーツ企画課長  
武内スポーツ企画課担当課長 ほか  
（オブザーバー）  
保健福祉局保健福祉部障害保健福祉課  
保健福祉局長寿社会部長寿福祉課  
教育委員会事務局体育健康教育室

- 1 開会（事務局）
- 2 委員紹介（事務局 資料7）
- 3 挨拶（細見副市長）
- 4 委員会設置要綱説明（事務局）
- 5 委員長選出，委員長職務代理指名  
山下委員選出，松永委員長職務代理指名
- 6 議事
  - （1）資料説明（事務局）
    - ◇山下委員長 この10年で，新しい試みが出てきているが，本計画と市民マラソン（フルマラソン）など大規模イベントとの関係はどう考えるか。
    - ◇（事務局） 京都マラソンについては，競技スポーツではなく，市民レベルの参加するマラソンを目指している。する，観る，支える総合スポーツイベントとして計画に盛り込んでいってはどうかと考えている。
    - ◇山下委員長 京都マラソン等についても視野に入れて計画を練るといことですね。
    - ◇（事務局） 総合的なスポーツイベントについても計画の中に項目のひとつとして盛り込んではどうかと考えている。
    - ◇松永委員長代理 資料2の進捗状況の項目4「新たなスポーツ拠点施設の整備」について，水垂スポーツ拠点施設整備事業はできていないが，上の3の事業ができていますので◎ということか。また，水垂はどのような機能を想定し，どのような状況で事業がストップしているのか。
    - ◇（事務局） 3事業は実施済あるいは実施中。水垂はゴミの埋立地活用検討の中で，一部をグラウンド・ゴルフの全国大会ができるような機能を想定している。平成20年度に基本計画策定。実施に当たって民間活力導入可能性調査などを行った。平成22年度は事業費を伴わない状況ということ。財政状況が好転すれば事業を進めることはできると考えており，実

施済みではないが進行中ということで◎とした。

- ◇松永委員長代理 指定都市の計画はどこもかなり充実しているが、これだけしっかり検証されているところは少なく評価したい。ただ、◎を付けると全部出来ているように見えるので注意が必要。
- ◇山下委員長 事業の実施済、実施中について、説明があれば。
- ◇(事務局) <資料3 補足説明>
- ◇高屋委員 中学校のナイター設備は小学校よりいいが、十分に利用されていない。
- ◇西村委員 小学校のナイター設備は100ルクスが主流。中学校は150ルクスを設置。小学校のように体育振興会の活動拠点になっていないために、利用が低調。より広い使い方を想定していたが、アイデアがあれば出して欲しい。
- ◇高屋委員 早く日が暮れる冬場などは、中学の部活動に使ってもらうなど柔軟な対応をしてはどうか。
- ◇西村委員 活用については柔軟に対応したい。
- ◇山下委員長 利用については学区間の連携も必要ということですね。

## (2) 計画策定に当たって

- ◇山下委員長 これから次期振興計画の議論を進めていくが、本日は初回なので各委員に団体等の現状、今後のあり方などについて順次意見をいただきたい。
- ◇檀野委員 体育協会には、水泳協会の代表として参画している。10年後の姿としては、スポーツを通じて市民の活性化につなげたいと考えている。水泳の分野でいえば、京都アクアリーナは3年前までは体育協会が管理していたが、今は、民間の指定管理者。当初あった母と子の水泳教室はよい試みだったが、自然消滅してしまった。子どもたちが水の事故に遭わないようにする、熟年者などが低価格で水泳に親しむことができるようにしたい。例えば、リハビリの一環としてプールの中を歩くのは、陸の上と比べると80%負担を軽減できる。トップレベルの選手も育てているし、市民が身近なスポーツを通じて健康でいられるよう、楽しく活用してもらおう。スポーツをやりたい人は多いがきっかけがない人も多く、そうした市民が一步踏み出すため、どう手伝っていきけるのかを考える。スポーツを通じて健康でいられることと、アスリートの育成の両方を考えていきたい。
- ◇高屋委員 体育振興会は市民スポーツの底辺を支えている。地域スポーツをするに当たって大事なことは、場所を確保すること。地域体育館もあるが、多くは小学校を使っている。しかし、人口の多い学区とそうでないところの差は大きく、また、人口の減少や役員の高齢化等で規模や内容が小さくなってきている。小学生を対象にしたスポーツも熱心になり、施設の使い勝手が悪いところがある。体育館も古いものと新しいものなど差がある。市民のニーズは多様化している。市民スポーツフェスティバルについても、近年見直す必要があるのでは、一緒に考えていきたいと思う。
- ◇雑賀委員 ゲートボールの普及・指導に携わっており、小学校で依頼があれば指導している。スポーツの底辺拡大に当たっては、指導員と子どもはいるが、先生が不在の場合、何かあった時にどう対処するかなど課題がある。

老人クラブとしては、最近ペタンクを取り上げた。ゲートボールやグラウンド・ゴルフと違って、比較的若い50歳代の人がやっているの、この層を老人クラブに取り込めないかという意図もある。このように、潜在的ニーズの掘り起こしも大切。

- ◇片山委員 京都では障害者スポーツとして、卓球バレーを普及・発展させ、京都国体のとき、全国身体障害者スポーツ大会のオープン競技として実施し、競技には30年程関わっている。全京都卓球バレー大会の参加チーム数が最大116チームあったが、4、5年前からチームは減少し、今では88チーム程。参加者、介助者も高齢化が進んでおり、減少傾向にある。障害者スポーツは、使える場所が限られていることや支える人が減少していることなどから、10年後についてはどうなるかととても心配である。
- ◇石野委員 市民公募委員。行政的な仕組みはわからないが、スポーツは好きで応募した。
- ◇吉田委員 長年地域でバレーボールをしてきた。バレーボールが市民スポーツだとは思わなかったが、スポーツで身体を動かすことは楽しいし、そのことが健康や仲間づくりにつながっている。市民スポーツを身近に感じて市民公募委員に応募した。
- ◇森井委員 少林寺拳法スポーツ少年団。京都醍醐カルチャー役員、指導者として活動している。そして、地域・社会活動に積極的に参加している。
- ◇松永委員長代理 スポーツマネジメントを専攻。他の自治体でも計画づくりに携わったが、京都ならではのものにしたいと思う。京都市の独自の仕組みとして体育振興会がある。スポーツ振興計画については、つくることが目的ではなく、実施するためのものなので、できたことできなかったことを精査して次の計画策定に生かす。かなり情勢は変わるので5年で見直す機会をつくった方がいい。京都は学生のまち。人材の面で学生や女性は活用できる。新旧住民が入り込んでいる地域もあり、新住民がなかなか入っていけない場合もある。市民公募委員の方には住民目線の意見を言っていたきたい。
- ◇長谷川委員 こういう会議は初めてだが、一方通行の会議ではなく、私たちのレクリエーション協会の活動についても皆さんに知っていただき、皆さんのことも知りながら会議に参加していきたい。
- ◇西村委員 3代目のプランを策定していく。市民スポーツ振興の理想は富士山だと考える。競技スポーツは高い頂点を目指し、裾野もできるだけ拡大する。行政としては、「みんなのスポーツ」と表現しているが、なかなか伝わらない。自分のスポーツ、あなたのスポーツ、対象を明確化し、ポイントをしぼり、それを集めれば「みんなのスポーツ」になると思う。
- ◇山下委員長 10年前も策定委員会の委員長を務めさせていただいた。当初は、ハード面に議論が集中したが、総合型地域スポーツクラブの導入を控え、住民ネットワーク、マンパワーを活用する「スポーツごころ」が生まれた。挑戦する気持ちがあればどこにも負けないスポーツ振興ができるという当時の委員の皆様の気持ちがあった。社会変化は激しく、施設管理の民間委託、プロスポーツの振興、多くの組織の協力が必要な大規模イベントの開催など新しい局面にある。依然としてスポーツの底辺は活発

に動いている。ママさんバレーなど市民スポーツは大切。地域スポーツの原点は忘れてはいけない。「スポーツごころ」はハード面を補うだけでなく、本格的に「スポーツごころ」を社会資本化していくことが必要。人と人との絆，組織と組織の絆を強化する必要性が問われている。新しい時代のキャッチフレーズは「スポーツの絆が生きるまち京都」として，スポーツの周辺を結びつけたい。8箇月足らずの委員会だが，熱い議論を期待している。

以上で本日の議論を終了したい。

- 7 その他（次回日程等事務連絡）
- 8 閉会